



円高対策が急務

円高について九月五日号で触れたが、その後、質問もあり、再度とりあげます。

日本から輸出すると代金を国際通貨ドルで受け取る。人件費、材料費等は円で払うのでドルを円に換金する。逆に何かを輸入する人は、そのドルを買う。輸出入が均衡を保っていればこれで良い。が、輸出競争力が強くて輸出が多いと、代金のドルを売る人が多く、逆に、ドルを買って輸入する人は少ない。その為、ドルが安く円が高くなる。それで輸出が減り、輸入が増え、輸出入が均衡する方向に動く。

しかし、今回の円高は、このケースに当たらない。ドルやユーロの先行きに不安を感じたヘッジファンドなどが、買易とは関係なく、ドルを売り、円を買っている。商品生産の場合、材料を買い、加工し、価値を高めて売り、儲ける。ところが、ヘッジファンドは、円の

安い時に円を買い、円が高くなったときに円を売ることによって儲ける。何ら、商品価値を高める行為をしていない。一方汗水垂らして働いて商品を生産する人たちは、利益が上がらなくなる。

さて、日銀は市場介入として大量の円資金を市場に投入して、円安を維持しようとしている。しかし、米国や欧州諸国の経済状態がこれで変わる訳ではない。日銀の資金にも限りがある。このままでは又円高に推移するのではないか。ヘッジファンドは日銀提供の安い円を買って、円高を待っていけば良いのだ。これでは日本が損をする。

問題は、汗水垂らして商品を生産するのではなく、金を動かすだけで利益を得る行為を規制することではないか？金を動かすだけ、つまり、商品の売買に伴わない円ドル交換に課税をすることが必要と云うのが九月五日号の趣旨だ。

皆さんはどう思われますか？

貝掛温泉



八月末に苗場山に登った帰り、三国街道沿いの貝掛温泉に泊まった。室町時代からあるという三七度のぬるい温泉。ぬるいから、長くのんびりつかってられる。眼病に効くという秘湯。今年の夏は大変暑かったが、深い木々のある谷沿いの宿でクーラーは無いのに涼しい。